

**カードをつなげて、自分やグループの考えをまとめる**

■ 使用する機器、アプリ等

iPad、ロイロノート

■ 学習のねらい

青年期の課題である自立や男女の平等と協力について考察し、恋愛や結婚、家族・家庭など自らの将来の生活(人生)の在り方について考えることができる。

■ 授業の流れ(100分)

時間	学習活動
10分 導入	○恋愛関係にある高校生のやりとり(寸劇)を見て、様々な人間関係の中で虐待が起こりうることに気付く。(児童虐待、ドメスティックバイオレンス、デートバイオレンス等)
40分 展開①	○「デートバイオレンス予防教育*1プログラム」に取り組む。 ・ロイロノートで配付された 15 枚の「デート行動カード」を用いて、健康的なお付き合いの進め方を個人で考える。 ※「デート行動カード」には、「出会う」「電話をかける」など、様々なデート行動が文字で表現されている。 ・グループ内で、自分が考えるお付き合いの進め方を発表する。新たに作成したカード、使用しなかったカード等に触れながら、この進め方になった理由を説明する。 ・グループでベストと考えるお付き合いの進め方を考え、発表資料を作成する。 ・グループの考えを提出箱に送付する。
30分 展開②	・個人の考えを提出箱に送付する。 ・グループで話し合った結果を代表が発表する。他のグループの発表内容を聞き、自分の価値観や考え方との相違を考える。
10分 展開③	○まとめのDVD「あなたの恋は大丈夫?・まとめ」(大阪府立大学看護学部 佐保美奈子准教授 作成)を視聴する。
10分 まとめ	○学習を振り返る。 ・恋人との付き合い方について、自分は何を大切にするか、改めて自己を見つめて整理し、振り返りシートに考えや感じたことを記入する。⇒「振り返りシート」

\*1 「デートバイオレンス予防教育プログラム」は、大阪府立大学 佐保 美奈子 准教授(研究代表者)が高校生一人ひとりの人権を擁護した「自分を大切に思う気持ち」を育て、「命の尊さを感じる心と行動を身に付ける」、高校生への性教育授業の充実を目的として作成された教材である。

■ ココで ICT を活用！

従前、この授業では、さまざまなデート行動を文字とイラストで示した大きな紙のカードをグループに配付し、グループ単位で「お付き合いの進め方」を考えさせてきた。6～8名で話し合いながら、模造紙にカードを並べ、貼り付けてグループの考えをまとめさせた上で、全体発表を行うという流れで授業を行ってきた。今回は、「1人1台端末」の環境を生かして、展開①・展開②の場面で授業支援クラウド「ロイロノート」を使用して授業を行った。

動画 1

**「デート行動カード」を取捨選択したり、新たなカードを追加したりして考える**

個々の生徒に教材配付された 15 枚の「デート行動カード」には、「出会う」「手をつなぐ」「電話をかける」など、様々なデート行動が書かれている。生徒は、高校生であ

る「現在」の設定の下で「デート行動カード」を選択し、恋人とどのように付き合っていくかを考える。全てのカードを使う必要はない。また、欲しいカードがなければ、自分で作成してもよい。

#### 動画2

#### 自分の考えを説明する。協働で考えをまとめる。

自分が考えた恋人とお付き合いの進め方をグループ内で発表する。個々の端末上にあるお付き合いの進め方を共有し、クラウドにあるカードを動かしたり追加したりしながら、協働で意見整理を行い、グループで考えを一つにまとめる。話し合いを通じて思考を深める。

#### 動画3

#### 各グループの考えをクラス全体で共有する。

ロイロノートの提出箱に送信された各グループのカードを大型提示装置に転送提示し、クラス全体で発表を行う。



### ■ ICT 活用のメリット

#### 業務の効率化を図り、限られた学習時間を効率的に運用することができる。

クラウド上でデジタルのカードを作成し、40人に配付・回収を行うことは、紙で40人分のカードを作成、配付・回収することと比較して、作業や時間の負担が圧倒的に少ない。また、生徒一人ひとりにデジタルのカードを配付できたことで、従前と同じ指導時間(2時間)の中で、生徒が個人で考える活動や時間を保障し、全体発表まで行うことができた。指導の効率化とともに、授業の質の向上をもたらすことができた。

#### 生徒全員がじっくりと学習課題に向き合い、思考を深めることができる。

従前は声の大きい生徒に流され、全ての「デート行動カード」を使い切ったストーリーを考えることが目的になってしまったり、恥ずかしさから本音を言えず周囲の雰囲気に合わせてながら活動に取り組んだりする生徒の姿が見られ、自分の意見や考えを表すことが苦手な生徒が参加しにくい状況があった。

しかし、1人1台端末環境下で個々の生徒にデジタルの「デート行動カード」が行き渡ることにより、カードを取捨選択したり何度も順番を入れ替えたりしながら、全員がじっくりと学習課題に向き合って試行錯誤し自分の考えをまとめる姿が見られ、本時のねらいの達成により一層つなげることができた。自分の価値観や考えに向き合い、使用するカードを吟味する姿や、自分で考えたより具体的に相手への配慮が感じられる「デート行動カード」を追加してお付き合いの進め方を考える生徒の姿が多く見られ、学習のねらいにより深くせまることができた。

[生徒が考えたお付き合いの進め方→](#)



## ■ 本実践での工夫

### 「デート行動カード」を厳選し、自分(たち)で新たに追加する余地を残す。

学習のねらいに即して生徒に何を考えさせるのかを焦点化し、生徒に一斉配付する「デート行動カード」は 15 枚に厳選した。その上で、生徒がより自分の意思決定に基づいて考えられるように、自分が考えた「デート行動カード」を追加してもよいことにした。タブレット端末を使うと、紙と比較してカードの追加や削除、順番の入れ替え、文章や文言の書き込みや修正が容易で負担が少ないため、生徒は学習に集中することができた。グループで考える際も、お互いのカードを共有したり、デジタルのカードに書き込んだり、消したりしながら、1 つの考えにまとめていくことが容易であった。

### 仲間の考え方との相違点や共通点を認め合いながら相談させる。

グループ共有では、自分のタブレットの画面を実際に見せながら自分の考えを説明させた。グループで協同的に取り組み、よりよいものに練り上げるためには、それぞれの考えを伝え合う話し合いが必須となる。各自の発表の後に、共通点や違いを見いだすように指示することで、様々な価値観に触れさせ、違いを認め合う学習につなげた。

## ■ 実践の振り返り-活用を深めるために-

クラウド上で生徒が学習を進めるので、生徒一人ひとりが自分の考えをまとめていく様子や進捗状況を教員はリアルタイムで把握できた。また、生徒が提出した学習課題や学習履歴等をクラウド上で一元的に管理できるため、生徒の実態(理解度、つまずき、生徒間の協力状況等)を踏まえた指導を個別に行うことができた。

生徒の振り返りの記述から、「自分の安心・自信・自由がとても大切である」、「嫌な時は、はっきりと NO ということが大切である」、「人によって感じ方は違う。相手のことを思いやることが大切」等、お付き合いに関する考え方において知識や意識の変化が見られ、本時や単元のねらいに従来よりも、より迫ることができた。

こうした生徒一人ひとりの学びの深まりを踏まえて、例えば展開①②において、クラス全員の「お付き合いの進め方」をクラウド上で一斉に共有した上で、友だちの多様な意見や考え、価値観に触れながら、個人でさらに考察を深めさせたり、グループで議論を活性化させたりするなど、授業全体のデザインを次年度は再検討していきたいと考えている。